

## 通 信

\*\*\*\*\*

## 国立自然史博物館を沖縄に 沖縄生物学会会長 当山昌直

\*\*\*\*\*

「沖縄県に本格的な自然史博物館ができる」。私たち学会員は、それをどれほど待ちわびているか。沖縄生物学会としても、自然史博物館設立を実現させるため、永年にわたりいろいろと努力してきた。ところが、会員の皆さんもご承知のように、なかなか実現の兆しが無い。それでも、我々はあきらめない。沖縄にとって必要不可欠なものだからだ。

上記の一文は、沖縄生物学会通信 49号（1991）「自然史博物館設立推進委員会に関して」（当山筆）の冒頭部分です。この一文にもあるように、自然史博物館設立への想いは今も昔（以前）も変わりがないことに気がつきます。ここで沖縄生物学会における取り組みの概略を以下に記します。

1974年8月25日、沖縄生物学会第11回大会総会。池原貞雄会長より、琉球列島の特異的な自然を理解するため、資料の散逸を防ぐため、また社会教育のためにも、県立の自然史博物館を設立する必要性を痛感する旨の趣旨説明。そのあと議論がかわされ、全会一致で設立要請が決議されました（「沖縄県立自然史博物館設立基本構想」沖縄生物学会 1990年版参照）。

沖縄生物学会では、1974年以降、沖縄県、県議会、県教育委員会など関係機関への要請を続け、また毎年開催される学会総会においても経過報告がなされてきました。しかしながら、これまでの学会の取り組みにもかかわらず一向に伸展がみられず、最初の一文のような状況になったわけです。さらには、1990年代にすすめられた県の博物館構想に自然史博物館が含まれないなど、とりまく情勢はきびしいものとなりました。そこで2000年代に入ると、これまでの要請方法を切り替えて、県立の自然史博物館設立推進委員会を休止し、国立の自然史博物館や県の振興計画等に、その可能性を模索することとしました。

このような中、日本学術会議は提言「国立自然史博物館設立の必要性」を2016年に公表しました（日本学術会議ホームページ参照）。それを受けて、日本初の国立自然史博物館を沖縄に実現するために、日本学術会議関係者や琉球大学などの自然史科学研究者有志で国立沖縄自然史博物館設立準備委員会（準備委員会と略す）を発足することになりました。準備委員会には沖縄生物学会会長および学会関係者も参加し、また、学会としても準備委員会が主催するシンポジウム等に共催で参加しております。

2017年5月の沖縄生物学会第54回大会では、その活動の概要を報告しております。さらには本通信をとおして全会員にも周知することにしました。今後、取り組みの強化をすすめ、沖縄に国立自然史博物館が実現できるようにしたいと希望しております。

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会第55回大会の開催のお知らせ

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の第55回大会を下記の要領で開催いたします。会場は沖縄県立芸術大学です。一般講演、ポスター発表、懇親会を予定しています。別途、ご案内を差し上げますので、多数の会員のご参加をお待ち申し上げております。2018年5月19日（土）の午後に高校生によるポスター発表を計画しております。高校生の参加費は免除されますのでふるってご参加ください。

**第55回大会：沖縄県立芸術大学 首里当蔵キャンパス 一般教育棟**

(<http://www.okigei.ac.jp/access/index.html#access>)

2018年 5月19日（土）8:30～ 受付開始, 9:00～ 一般講演開始

### ・講演申込

沖縄生物学会大会での発表を希望される方は、口頭発表かポスター発表の別を明記のうえ、講演要旨を以下の要領でまとめ、**2018年4月13日（金）（必着）**までに、原則として、**電子メール（[okibio2018\\_opua@yahoo.co.jp](mailto:okibio2018_opua@yahoo.co.jp)）にてお送り下さい。メールによる申込は原則として、1件につき1申込とし、お一人で複数の発表申込はご遠慮ください。**今回の大会では、口頭発表会場を2会場とする予定ですので、例年よりも口頭発表件数を増やす見込みです。ただし、**同一研究室からの口頭発表の申し込みは、原則として1題のみとさせていただきます**、残りはポスター発表とします。その他、申込人数及びポスター会場の都合に応じて発表形式の変更をお願いする場合があります。申し込みまたは講演要旨受けつけ後、大会準備委員会から折り返し受領確認メールを3日以内に送信しますので、必ずご確認いただけますようお願いいたします。

口頭発表の発表者は、原則として会員に限ります。会員の皆様の日頃の研究成果を発表する場として積極的に御参加くださるようお願いいたします。口頭発表は**パワーポイント（pptx もしくは ppt ファイル）によるデジタルプロジェクター使用での発表とします**。準備委員会の方で OS が Windows 7 か Macintosh OSX のノートパソコンを準備いたしますが、ソフト等の不適合が起こることが懸念されますので、可能な限り、御自身のパソコンをご持参下さい。それ以外の設備を必要とする方は、予めお問い合わせ下さい。一般講演の講演時間は、質疑を含め**15分（講演12分、質疑3分）**です。\*ポスターの大きさは160cm(縦)×90cm(横)に収まるように設定ください。

### ・講演要旨の作成要領と原稿送付方法

発表要旨原稿は E メールによる添付書類（MS-WORD）で受け付けることと致します（[okibio2018\\_opua@yahoo.co.jp](mailto:okibio2018_opua@yahoo.co.jp)）。**メールの件名を「発表申込 発表者氏名」として下さい。メールによる発表申込は原則として、1件につき1申込とし、お一人で複数の申込についてはご遠慮ください。**

フォントは MS 明朝体 11 ポイントとし、英文の場合は Times New Roman とします。その他、句読点等の書式は沖縄生物学会誌投稿規定をご参照ください。**演題、演者、本文を含めて 800 文字以内とします**。文字数のカウント法についてですが、ワードの通常の画面下に出ている文字数には半角英数字は単語一つが1文字としてカウントされてしまいますので、**校閲タブの文字数カウント機能**のほうでご確認ください。図表は講演要旨の中には入れないで下さい。用紙作成例について次ページに記載しておりますので、必ずご確認下さい。

・要旨作成例

タイトル（太字）、発表者、所属はMSゴシック11pt

**潮下帯砂泥底に生息する穴居性甲殻類**

○成瀬貫（琉球大・熱生研・西表）・吉田隆太（お茶ノ水大・湾岸生物教育セ）

所属は短縮表示

潮下帯の砂泥からなる海底には、無数の穴が散在していることがよくある。これらの穴は様々な生物の活動により形成されている場合がほとんどと考えられる。しかしそれらの穴の

発表者に○

本文はMS明朝11pt、段落は複数可。  
句読点は、. を使用。

◆2018年4月下旬発行予定の沖縄生物学会通信第102号にプログラムを掲載するため、発表の申し込みについては締め切り厳守をお願いいたします。

・懇親会申込

発表の有無に関わらず、懇親会に参加される方は**2018年4月13日（金）までに準備委員会宛にメールでお申し込み下さい。**懇親会は、沖縄県立芸術大学近辺（徒歩1～2分）の居酒屋を予定しております。懇親会への参加申し込みは大会当日にも受け付けますが、その場合、参加費は当日料金となりますのでご注意ください。懇親会費は、事前申し込み2,500円、当日申し込み3,500円（学生は両方1,500円）程度の予定です。

<問合せ先>

沖縄生物学会第55回大会準備委員会委員長 藤田喜久  
E-mail: [okibio2018\\_opua@yahoo.co.jp](mailto:okibio2018_opua@yahoo.co.jp)  
沖縄県立芸術大学 全学教育センター・藤田喜久

◆シンポジウム

シンポジウムのテーマに関しましてご意見・ご提案を受け付けております。2018年1月末まで事務局にご連絡ください。電子メールでのアイデアを歓迎しております。過去のシンポジウムの一覧を下記に示します。シンポジウムの最終的なテーマは、今後、事務局と沖縄生物学会の大会実行委員会で検討した後、次回の通信でお知らせする予定です。

2017年	開催なし	2010年	生物多様性地域戦略～戦略に資するモニタリングデータの効果的収集～
2016年	アクティブラーニングの視点で沖縄における海の生物・環境教育の深化を考える	2009年	オキナワトゲネズミ <i>Tokudaia muenninki</i> ～アージの暮らせる森づくりに向けて～
2015年	公開シンポジウム：琉球列島の「隠れた」環境における生物多様性	2008年	沖縄の生物：環境変化がもたらした影響
	ミニシンポジウム：理科教育連携WG	2007年	外来種法の盲点：見えない脅威と琉球列島の生物多様性
2014年	琉球諸島の世界自然遺産登録に向けて：琉球諸島の生物多様性と保全の現状	2006年	レッドデータブックを考える
2013年	奄美・琉球の世界自然遺産への登録に向けて	2005年	琉球列島の生物研究の新たな展開
2012年	生物多様性地域戦略の実効性を高める手立てとは	2004年	やんばるの危機 —マングースの北進とペット問題—
2011年	琉球の生物地理—今後の展開に向けて	2003年	サンゴ礁と人の関わり

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会 54 回大会・総会報告

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会第 54 回大会が2017 年 5 月 20 日（土）に琉球大学 理系複合棟 1 階を中心に開催されました。一般講演 15 件、ポスター講演 34 件が行われ、大会参加者は一般 99 名、学生 34 名、引率教諭および保護者 7 名、高校生 18 名、小学生 2 名の計 190 名でした。公開シンポジウムは開催されませんでした。総会には43名の会員が参加し、伊澤 雅子代表幹事の司会のもと、千木良 芳範 副会長の開会挨拶、当山 昌直 会長の挨拶の後、議長団として山城 秀之 会員、池内 絵里 会員が選出され、議事が進行されました。

報告事項としては、中村 崇庶務幹事から2016 年度事業（54 回大会の開催、通信 99、100号の発行）について報告がありました。ついで成瀬 貫 編集幹事より、会誌 55 号について、3月31日に発行され、計7報が掲載されたことが報告されました。ついで傳田 哲郎 会計幹事による2016 年度決算報告、齊藤 由紀子 会計監査員による監査報告がなされました。次に千木良 芳範 池原貞雄記念賞選考委員長より、今年は推薦がなかったことが報告されました。次に山崎 仁也 理科教育連携WG代表より生物画像データベースについて、データベースが一般公開され、現状で150件ほどの画像が登録されていることが報告されました。次に傳田 哲郎 会計幹事から会員名簿の整理状況について報告があり、各会員へ会費の納入状況を通知したこと、会員名簿の整理が進んでいることが報告されました。さらに戸田 守 自然史博物館設立要請委員長より沖縄に国立自然史博物館の誘致する構想が紹介され、これまでの経緯とその取り組みについて報告されました。最後に戸田守庶務幹事より、今後の年次大会の在り方についてのアンケートについてアナウンスがありました。

審議事項としては、中村 崇 庶務幹事より、2017 年度事業計画（会誌 56 号発行、通信 101、102 号発行、第 55 回大会の開催）が提案され、承認されました。次いで傳田 哲郎 会計幹事より 2017 年度予算案が提案され、承認されました。つぎに当山 昌直 会長より会則の改訂が提案されました。会員名簿の整理のため、会費滞納者の除籍に関する会則についての改訂案が提案され、承認されました。これに関して、会費の納入方法について総会参加者から提案があり、今後幹事会、評議員会で議論を重ねることになりました。今後は、通信発送時に会費の納入状況を通知することも確認されました。会費の支払い期日についての質問もあり、基本は年度の終わりであることが確認されました。次に伊澤雅子代表幹事より「やんばる地域（国頭村、大宜味村、東村）におけるノイヌ対策に関する要望書」の沖縄県知事、環境大臣、国頭村長、大宜味村長、東村長への提出について提案がありました。審議の結果、要望書の一部文書の修正、提出先について提案があり、会長一任のもとで修正後、要望書を提出することが承認されました。議長団解任の後、千木良 芳範 副会長の閉会挨拶により総会を終了しました。



\*\*\*\*\*  
**沖縄生物学会年次大会の運営に関するアンケートの結果報告**  
\*\*\*\*\*

近年、年次大会での演題数は増加傾向にあり、それに伴って会期中の時間的なやりくりが難しくなっています。このような状況を受け、第54回大会（2017年5月20日；於琉球大）の場を借りて、大会運営に関するアンケートを実施しました。主な設問は、会期や会場数、演題数の制限に関するものと、一般講演を時間的に圧迫しかねないシンポジウムの開催の是非についてものとししました。

回答は全体で68通あり、うち66通（大会参加者の46.5%）で大会運営に関する設問への回答がありました。まず、時間的な問題の解決をどう図るべきかの問いについては、「会期を2日間に延ばす」が26人、「会場を2つに分ける」が25人と多く、「ポスター発表への移行を促す」は10人、「査読をつけて演題数を制限する」は2人でした。これを回答者の属性別にみると、「2会場案」の支持者は「発表した人」で多い傾向にあり、特に口頭発表をした回答者のすべてがこれを選択していたため、発表の当事者でさえ聴衆が2会場に分散することへの抵抗感は大きくないと言えそうです。次にシンポジウムの開催については、「会場の拡張・会期の延長をしてシンポを開催」が40人にのぼり、「演題数を絞ってシンポの時間を確保」（4人）と併せると67.7%に達しました。一方、「発表数に制限を設けるぐらいならシンポはやらない方がよい」は14人で、そのうち13人が会員であり、会員は一般講演を重視する傾向にあると言えそうです。

その他、自由に意見・要望を書いてもらう欄では、「ポスター会場が狭い」「ポスターの時間が不十分」「ポスター・サイズを大きくして欲しい」「発表賞を作るべき」「駐車場など、バリアフリーへの工夫が必要」などの意見とともに、「内容が多岐に渡っていてよい」「若手の多い、良い学会」などの肯定的な感想も寄せられました。今後のよりよい大会運営をめざし、これらの意見があることを次回以降の大会実行委員会に引き継いでいきたいと思えます。

沖縄生物学会幹事会

\*\*\*\*\*  
**「やんばるの森地域におけるノイ又対策に関する要望書」の提出**  
\*\*\*\*\*

2017年6月15日、当山昌直、伊澤雅子、長嶺隆の三名で環境省那覇自然環境事務所を訪問しました。西村学所長に要望書を手渡しました（那覇事務所経由環境大臣あて）。また、沖縄県庁にて、自然保護課長ほか関係者同席のもと、環境部大浜浩志部長に要望書（沖縄県知事あて）を手渡しました（写真参照：長嶺隆撮影）。沖縄森林管理署経由農林水産大臣、国頭村長、大宜味村長、東村長にも郵送しました。



\*\*\*\*\*

## 生物関連画像データベース試験公開&データベース画像大募集！

\*\*\*\*\*

沖生会理科連携ワーキンググループ運営による画像データベース（以下 DB）が、2017年3月末より試験公開を開始しました！下記 URL よりユーザ名、パスワードを入れれば閲覧が可能になっております。このユーザ名とパスワードは一時的なものですので、完全公開になればまた、変更の可能性があります。会員の皆様方には一度ご覧になって頂き、どしどしご応募いただければと思います。

http://www.okibio.jp/photo/index.php ユーザ：oki_estu パスワード：0kibi0_estu
---

### 画像の投稿について Q&A

#### 1. どんな画像を投稿すればいいの？

生物に関するものなら何でもかまいません。大学や高校の授業で使えそうだな、と思うものならなお良しですね。本 DB は、単なる“生きものの”DB ではなく“授業に使える”が売りの DB を目指し、ネット上の他の数多の DB との差別化を図りたいと考えています。

また、こんな画像欲しいな、あんなの誰か投稿してくれないかな、などの要望も随時受け付けていきたいと思っております。

#### 2. 投稿する画像の大きさに制限はないの？

投稿画像は1枚5MBまでです。大きい場合は提供者が投稿前に5MB以下に縮小してください。

#### 3. 映像は投稿できないの？

5MB 以下なら問題ありませんが、当面は画像優先でおねがいします

#### 4. 画像の投稿は何枚まで OK？

枚数の制限はありません。メール添付で送ってください（メールアドレスは以下に）。

ただし、今年度は全部で 1,000 枚までを上限とします。それを越えた場合は、総会以後（2017年5月20日）にまた追加します。

#### 5. 画像にクレジットは入るの？

DB 内の画像にはクレジットは入りません（クレジットを入れる作業は行いません）。提供者がクレジットを入れたい場合は、投稿前にご自身で入れてください。

#### 6. ファイル名はなんでもいいの？

ファイル名は以下のようにしてください。

『 20170203, 細胞と代謝, 実験, ゾウリムシ, 山崎仁也 』

『 日付、階層名（下図参照）、生物名、提供者名 』の順です。ワードの切れ目はカンマかスペースをお願いします。

ルールに従っていない場合、不備や誤記、不明な点があった場合は係より問い合わせがまいります。

このファイル名が利用時に検索する際のキーワードにもなります。他のキーワードを設定したい場合は、生物名の前後にはさんでください。

#### 7. 画像の送り先、DB 投稿に関する問い合わせは？

送り先は、沖縄県総合教育センター（IT 教育センター）にて設定された沖縄生物教育研究会のメールアドレスで、アドレスは以下です。こちらにメール添付で送られた画像を、係が分担して確認し、随時 DB へ受け渡します。

画像の送り先 『 okisei@as.open.ed.jp 』
---------------------------------

\*\*\*\*\*

## 平成29年沖縄生物学会第1回評議員会報告

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会評議員会が2017年11月6日（月）午後7時から、琉球大学理学部528教室において開催されました。参加者は16名でした。

### 【報告事項】

1. ノイヌ対策に関する要望書について、平成29年6月15日に那覇事務所経由環境大臣宛、沖縄県知事宛の要望書を関係機関に手交したことが報告されました。そのほか、沖縄森林管理署経由農林水産大臣あて、国頭村長あて、大宜味村長あて、東村長あてに要望書を郵送したことも報告されました。
2. 「シンポジウム国立自然史博物館の設立を目指して」の共催依頼について了承したことが報告されました。
3. 県立博物館の「ウィルソンがみた沖縄」のオープニングイベント出席依頼が届いたが、確認時に期日が過ぎていたため、対応できなかったことが報告されました。
4. 熱帯ドリームセンターの協力依頼に関して、後援（名義使用のみ）として了承したことが報告されました。
5. 沖縄研究奨励賞の推薦依頼が届いたが、学会としての推薦は馴染まないもので、対応しなかったことが報告されました。
6. 学術振興会より国際生物学授賞式案内（東京12/04）が届いたが、例年参加していないとの理由で、欠席の返信をしたことが報告されました。
7. 会員の整理の状況について、現在会員数342名であること、今年度末から3年滞納の場合退会の手続きを進める予定であることが報告されました。
8. 沖縄生物学会誌に掲載された論文を台湾の雑誌に翻訳を掲載することについて会員から審議の依頼があり、台湾の雑誌に著者、論文タイトルや雑誌名を明記とすることで許可したことが報告されました。
9. 池原貞雄記念賞選考委員について伊澤委員が外れることが報告されました。
10. 目録の印刷についてまず見積をとって増刷の可否を判断すること、改訂は（現段階では）不可能であることが報告されました。
11. 通信の発行について12月上旬発行を目標に準備を進めていることが報告されました。
12. メーリングリスト（ML）のメンバーには、次回の通信をメール添付ファイルのPDFで送り、紙＋郵送のコストと手間の軽減とMLの利用促進をはかることが報告されました。共催や後援等の行事案内も行ないMLの利用促進をはかることも報告されました。

### 【審議事項】

1. 沖縄生物学会第55回大会を2018年5月19日（土）沖縄県立芸術大学（首里当蔵キャンパス）において実施することが提案され、承認されました。
2. 池原先生を記念する出版物について、学会誌を特別号として刊行するという案が提案され、承認されました。現在、詳細について検討中であるが、現時点では、①追悼文や思い出など再募集すること、②これにより池原本の編集委員会は解散し、あとは沖縄生物学会誌編集幹事を中心に行うこと、③すでに原稿を送ってきている人に再度改訂の必要の有無、原稿を掲載の希望の有無を聞く予定であること、④2019年の3月刊行予定とすること、⑤巻頭写真のカラーについては一般会計からの支出すること、⑥カテゴリーとして追悼文、論文集、資料などを予定していること、⑦今後の通信やHPで原稿の募集案内を掲載することなどが報告されました。
3. 会員の整理について、3年滞納の場合自動的に退会手続きをすることになるが、3年滞納の計算の時点は、年度末とすることになりました。3年滞納の計算の時点、および再入会の時のルールについて、HP、通信で周知することになりました。
4. 三学会（植物・動物・生態）合同沖縄例会共催について先方より依頼があり、共催について承認されました。

\*\*\*\*\*

## 第9回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集

\*\*\*\*\*

第9回沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集します。規約にあるとおり、本賞は沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。参考までに、池原貞雄記念賞表彰規約は次ページに記載しています。

受賞者の決定は選考委員会で行われ、沖縄生物学会大会開催時に授賞式を行います。

### 池原貞雄記念賞候補者推薦要領

#### 1 推薦方法

別紙様式の表彰候補者推薦書(様式1)、推薦理由書(様式2)、履歴書(様式3、個人推薦の場合のみ)、団体の概要(様式4、団体推薦の場合のみ)各2部を添えて、沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局あて郵送にて提出する。

#### 2 推薦人員

(1) 各会員が推薦できる人数は、一部門の1名または1団体とする。

#### 3 候補者の例示

(1) 表彰規約の若手とは、おおむね45歳以下をいう。

(2) 表彰規約の長年とはおおむね10年以上とする。

(3) 表彰規約3の2の(1)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の生物に関する論文、講演などの実績があるもの。

(4) 表彰規約3の2の(2)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績があるもの。

(5) 表彰規約3の2の(3)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。

ア) 沖縄の自然環境の保全に関する活動実績(書籍、事業、イベントなど)があるもの。

#### 4 候補の対象としない者

(1) 過去に当記念賞を受賞した者。

#### 5 応募方法

(1) 沖縄生物学会通信および学会ウェブサイトにて公募する。様式はウェブサイトからダウンロードできる。

(2) 表彰規約3の2の(1)でいう研究部門については、代表的な論文5編以内(コピー可)を添付すること。

(3) **応募締切は2018年1月末日(当日消印有効)**とする。

(4) 応募書類の送付先

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内

沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局 宛

#### 6 留意事項

受賞者には自らの研究または活動の概要を受賞講演として沖縄生物学会大会で紹介していただきます。

#### 問い合わせ

本件に関する問い合わせは、学会事務局へメールにてお願いします。

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系

Tel: 098-895-8577、Fax: 098-895-8576 E-mail: [okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp](mailto:okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp)

**※ 池原貞雄記念賞表彰規約については学会HPをご確認ください。**

\*\*\*\*\*

## 沖縄生物学会役員一覧表

\*\*\*\*\*

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員が下記のように選出され、前回の総会で承認されました。任期は2年間で、2018年5月の総会までです。

会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)  
副会長 千木良 芳範(宜野湾市立博物館)、桃原 健次(沖縄生物教育研究会)

監査員 盛口 満(沖縄大学)  
齋藤 由紀子(琉球大学)  
山崎 仁也(県立博物館・美術館)

### 評議員

大学関係 新垣 裕治(名桜大学) 照屋 建太(沖縄キリスト教学院大)  
藤田 喜久(県立芸大)  
研究機関 岡 慎一郎(沖縄美ら島財団)  
長井 隆(沖縄県環境科学センター) 水野 拓((株)イーエーシー)  
行政機関 城間 恒宏(沖縄県教育庁) 德里 政哉(沖縄県自然保護課)  
高校関係 大城 直輝(那覇西高校) 知花 史尚(中部商業高校)  
大隅 大(名護高校)  
中学校関係 平敷 りか(中城中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 千木良 芳範(宜野湾市立博物館)  
池原貞雄記念出版委員会委員長 横田昌嗣(琉球大学)  
自然史博物館設立要請委員会委員長 戸田 守(琉球大学)

庶務幹事 伊澤雅子(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)  
富永 篤(琉球大学) 戸田 守(琉球大学)  
中西 希(琉球大学) 山川(矢敷)彩子(沖縄国際大学)  
会計幹事 傳田哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)  
編集幹事 成瀬 貫(琉球大学) 守田 昌哉(琉球大学)  
編集委員 久保田 康裕(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)  
大瀧丈二(琉球大学) 今井秀行(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、[okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp](mailto:okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp) です。

\*\*\*\*\*  
**沖縄県生物学会賛助会員**  
\*\*\*\*\*

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行  
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098)868-6373

株式会社 森山商事 代表取締役 森山紹政  
〒902-0064 那覇市寄宮2丁目29番22号 (098)835-4056

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石哲也  
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098)942-0085

\*\*\*\*\*  
**原稿募集のお知らせ**  
\*\*\*\*\*

これまで沖縄生物学会誌では、12月末に「締め切り日」を設け、この日までに投稿された原稿を全て掲載してきました。しかし、一部論文では審査が長引き、その結果、出版が本来の3月末から大幅に遅れ、9月や10月に発行されていました。そこで、第45号より締め切り日を廃止し、期日までに投稿されたものでなく、印刷業者への入稿日までに審査の終わったものを掲載するように変更しました。

1回の審査には、早くも2週間、通常は2ヶ月程度要しています。編集委員会での承認や校正作業、さらには年度末の印刷業者の混み具合、査読者への負担等を考えると、年明けに審査の終了していない論文は掲載が非常に難しくなります。

つきましては、諸事情をご理解の上、何卒お早めのご投稿をお願いします。投稿に際しては、第45号より投稿規定が大幅に変更されていますので、ご注意ください。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、e-mailによる原稿に関するお問い合わせは、編集幹事の成瀬貫 (naruse@lab.u-ryukyu.ac.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先: 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1  
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内  
沖縄生物学会編集委員会

\*\*\*\*\*  
**沖縄生物学会**  
\*\*\*\*\*

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地  
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内  
生物系事務室 TEL:(098)895-8577  
庶務 中村 崇 (098)895-8897  
FAX:(098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp  
振替口座(郵便):02030-8-30433 沖縄生物学会